

スーパーマーケット景気動向調査

2016年1月調査結果（12月実績）
（2016年1月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断、見通し判断ともに前月水準を維持

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.1の46.2、見通し判断は前月から変わらず44.1となり、共に前月とほぼ同水準となった。

経営動向調査結果は、客単価DI-1.1（前月比-8.8）と大きく下落し、消費税率引き上げの影響があった2015年3月と2014年4月を除けば、2013年8月以来のマイナスとなった。一方で前月大幅に下落した来客数DIは、依然としてマイナスではあるものの、-3.3（+6.6）と改善をみせた。仕入原価DIや販売価格DIには大きな変化はなく、来客数増と客単価減が相殺されたため、売上高DI、収益DIともに前月並みの水準を維持する結果となった。

カテゴリ動向結果は、平年よりかなり高い気温に大きな影響を受けている。これまで好調な動向を牽引していた青果DIが相場下落も重なり-3.8（前月比-8.7）と落ち込みが大きく、畜産DIも前月に引き続き2ヵ月連続でマイナスとなっている。一方で、好天の日が多く行楽・行事需要の高まりを受け、惣菜DIは9.1（+2.3）と堅調に推移した。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、今月はすべてのDIで前月から大きな変化はみられずほぼ横ばいでの推移となった。前月に続いての悪化からは踏みとどまった結果となったが、周辺地域景気判断DIの長期傾向でみる2015年5月をピークとした下降トレンドが継続している（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

11月に続き季節外れの気温や相場の落ち着きにより、好調を牽引してきた生鮮品が伸び悩み、実質的には、2年半ぶりに客単価がマイナスを記録するなど厳しい状況を来客数の改善が支える結果となった。今後も天候や相場に左右される側面はあるものの、客単価が支えてきた売上高に変化の兆しがみえている。今後も客単価DIと来客数DIの動向を注視していく必要がある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 46.2 （-0.1） 前月：46.3	消費者購買意欲DI 当月： 47.4 （+0.3） 前月：47.1	周辺地域 競合状況DI 当月： 42.9 （+2.1） 前月：40.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 47.2 （+0.2） 前月：47.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 44.1 （±0） 前月：44.1	消費者購買意欲DI 当月： 44.4 （-1.0） 前月：45.4	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.8 （+2.1） 前月：39.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 47.3 （+0.6） 前月：46.7
--	---	---	---

経営動向調査

経営状況

売上高DI 当月： -1.9 （+0.4） 前月： -2.3		収益DI 当月： -2.8 （-1.0） 前月： -1.8		
販売価格DI 当月： 7.5 （-0.8） 前月：8.3	客単価DI 当月： -1.1 （-8.8） 前月：7.7	来客数DI 当月： -3.3 （+6.6） 前月： -9.9	生鮮品仕入原価DI 当月： 7.3 （-0.1） 前月：7.4	食品仕入原価DI 当月： 10.3 （-0.1） 前月：10.4

カテゴリ動向

青果DI 当月： -3.8 （-8.7） 前月：4.9	水産DI 当月： -2.5 （+3.6） 前月： -6.1	畜産DI 当月： -2.3 （-0.6） 前月： -1.7	
惣菜DI 当月： 9.1 （+2.3） 前月：6.8	日配DI 当月： -1.5 （-1.8） 前月：0.3	一般食品DI 当月： +0.4 （+1.1） 前月： -0.7	非食品DI 当月： -10.2 （+0.8） 前月： -11.0

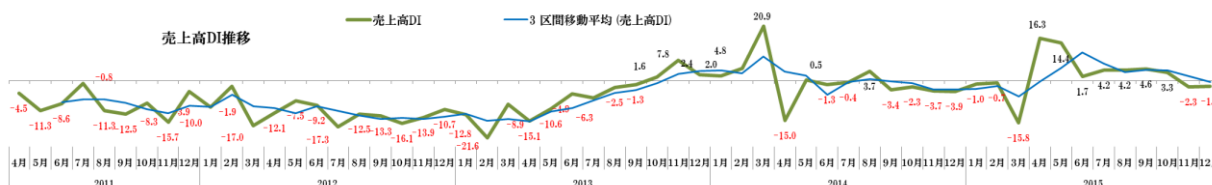
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

1月調査（12月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

2ヵ月連続のマイナスとなるも前月からは横ばい

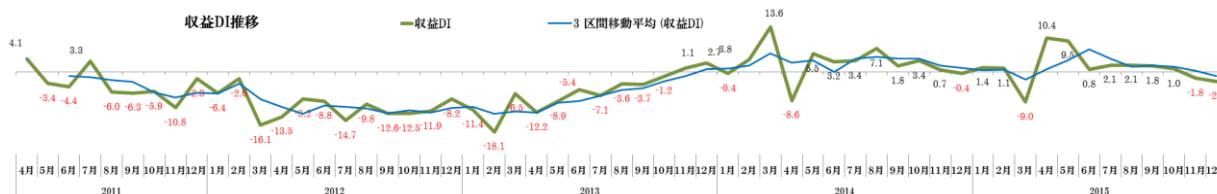
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	7.5	25.7	37.2	27.9	1.8	-2.3
売上高（当月）	5.2	27.0	40.3	25.1	2.4	-1.9



2. 収益DI

2ヵ月連続のマイナスとなり小幅に下落トレンド

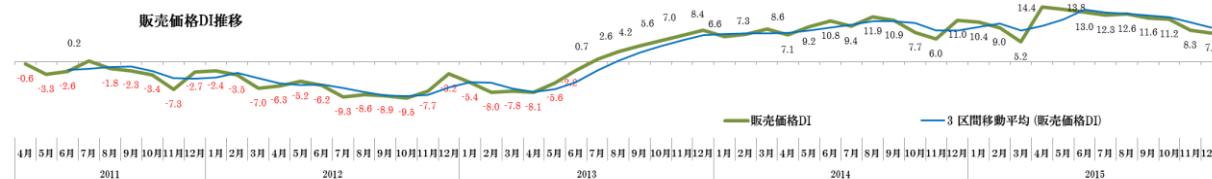
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	4.0	30.8	37.5	23.7	4.0	-1.8
収益（当月）	4.4	29.1	41.9	22.7	2.0	-2.8



3. 販売価格DI

引き続きプラス圏で推移もゆるやかに下降傾向

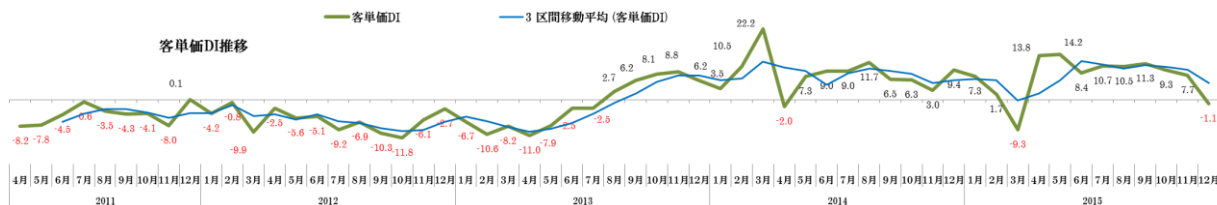
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.4	7.1	52.7	38.4	1.3	8.3
販売価格（当月）	0.0	9.6	51.4	38.5	0.5	7.5



4. 客単価DI

大きく下降し、消費税率引き上げの影響を除けば2013年8月以来のマイナス

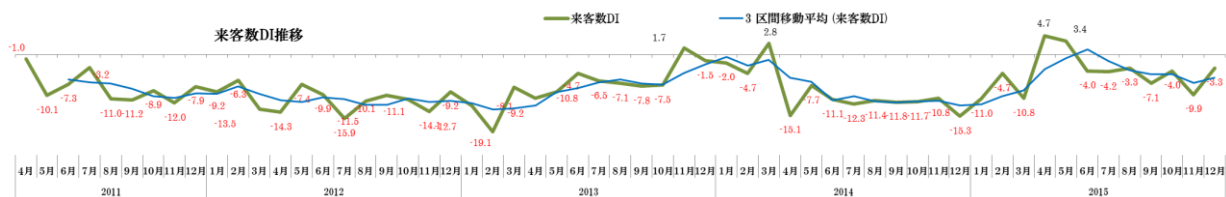
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	11.1	47.6	40.9	0.4	7.7
客単価（当月）	1.0	28.6	44.3	26.2	0.0	-1.1



5. 来客数 DI

回復をみせるも7か月連続でマイナスを記録

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.4	38.8	35.3	15.2	1.3	-9.9
来客数 (当月)	4.7	33.2	34.6	25.6	1.9	-3.3



6. 生鮮仕入原価 DI

2014年11月以来の一桁水準まで低下も前月からは横ばい

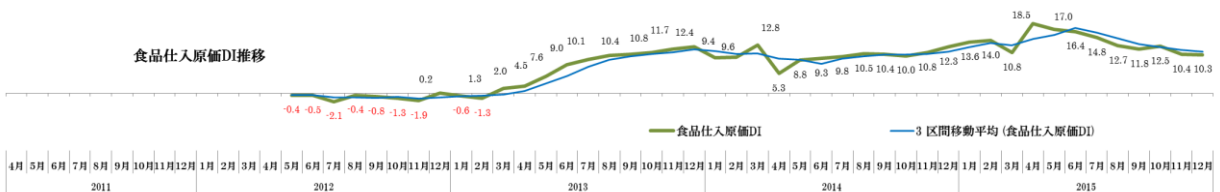
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.3	9.5	47.7	37.4	3.2	7.4
生鮮仕入原価 (当月)	1.0	13.7	43.4	39.0	2.9	7.3



7. 食品仕入原価 DI

ゆるやかに下降傾向も前月からは横ばい

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.3	4.0	48.4	43.9	2.2	10.4
食品仕入原価 (当月)	1.0	5.8	47.3	43.0	2.9	10.3

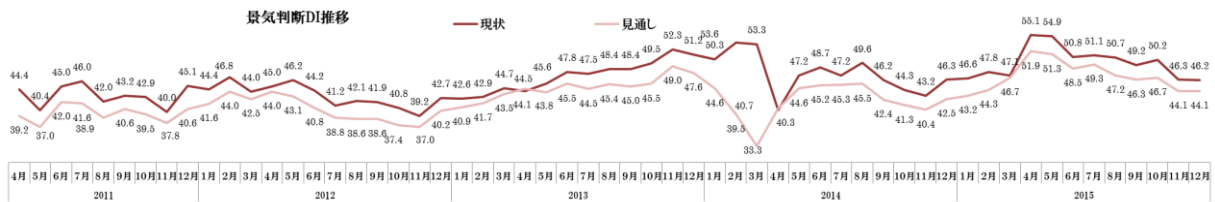


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に前月と変わらず

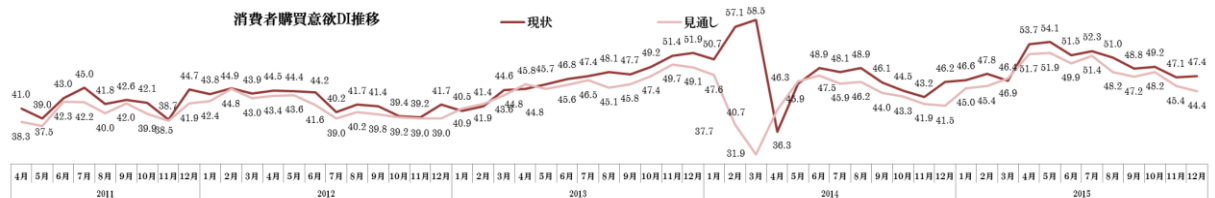
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.3	26.3	58.0	14.3	0.0	46.3
【現状】景気判断 (当月)	2.4	20.9	67.3	8.5	0.9	46.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.2	30.8	55.4	11.6	0.0	44.1
【見通し】景気判断 (当月)	3.3	23.2	67.8	5.2	0.5	44.1



2. 消費者購買意欲 DI

現状はわずかに改善も、見通し判断は悪化

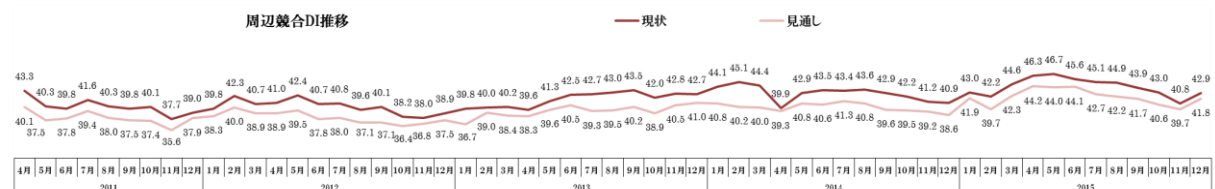
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	22.0	67.7	10.3	0.0	47.1
【現状】購買意欲 (当月)	0.9	19.4	69.7	9.0	0.9	47.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	25.1	68.2	6.7	0.0	45.4
【見通し】購買意欲 (当月)	0.9	25.1	69.2	4.7	0.0	44.4



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

7か月ぶりにやや改善をみせる

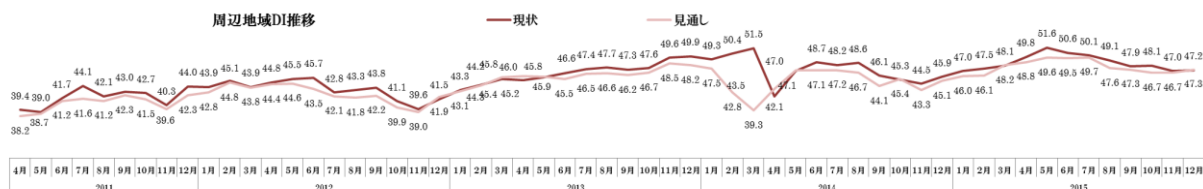
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.8	27.2	64.7	2.2	0.0	40.8
【現状】競合状況 (当月)	4.3	22.7	70.1	2.8	0.0	42.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	31.7	60.3	2.2	0.0	39.7
【見通し】競合状況 (当月)	4.3	26.1	67.8	1.9	0.0	41.8



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通し判断共に前月と変わらず

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.9	13.8	81.7	3.6	0.0	47.0
【現状】地域景気 (当月)	0.5	15.2	79.6	4.7	0.0	47.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	17.4	78.6	4.0	0.0	46.7
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	14.7	81.5	3.8	0.0	47.3

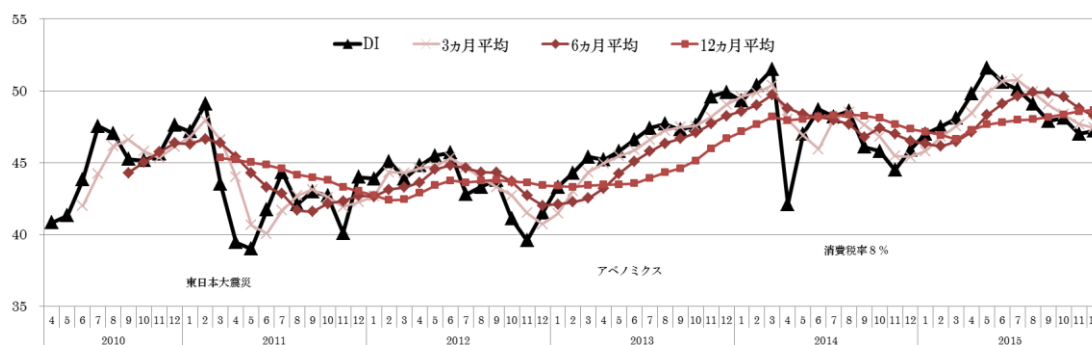


長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、2015年5月には調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。その後6月以降は一転して下落が続いている。直近11月は下落の速度がやや早まったが、12月はひとまず横ばい推移で踏みとどまっている。

引き続き12ヵ月平均線のみがわずかにプラスを維持しているものの、他の平均線はマイナス推移に転換し、12ヵ月平均線の下方に位置しており、弱含みな状況であることが顕著になっている。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



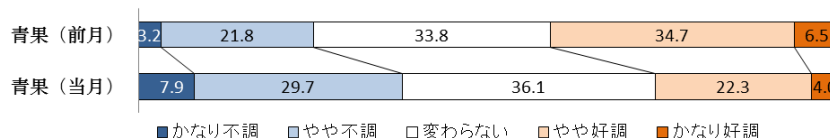
Ⅲ. カテゴリー別動向

カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

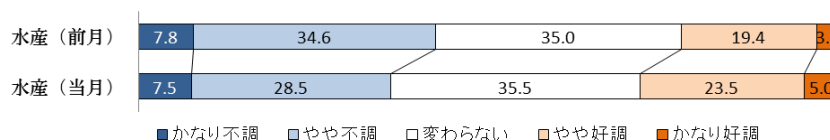
かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

1. 青果 DI：-3.8（やや不調）



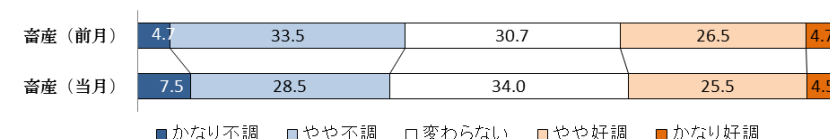
天候に恵まれ、生育が良く、相場安となり単価が下落した影響や葉物、根菜、きのこ類など鍋商材が伸び悩んだためやや不調となった。一方、果物は、みかんやいちごなどで単価が高く好調、など好調とするコメントがある一方で、品質の低下で苦戦しているとのコメントもみられた。

2. 水産 DI：-2.5（やや不調）



年末商戦での際物や刺身類が好調だった一方で、気温上昇によりタラ、カキ、カニ、練り物など鍋物商材が苦戦したため、全体としてはやや不調となった。

3. 畜産 DI：-2.3（やや不調）



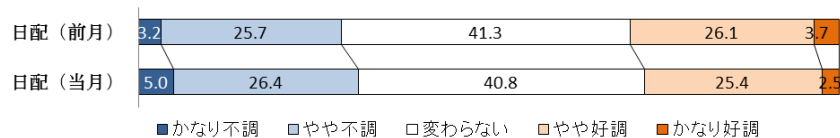
気温上昇により鍋物商材が苦戦、牛肉は相場が高く売り込みにくい状況となっておりやや不調となった。豚肉は相場が下がり始めた影響で好調とするコメントも一部にみられた。クリスマスは、ローストビーフが好調に推移したが、年末、地方では帰省客が少なく大型パックが不調とのコメントもみられた。加工肉は WHO の報道の影響がギフトを中心に大きく、回復には至らなかった。

4. 惣菜 DI：9.1（やや好調）



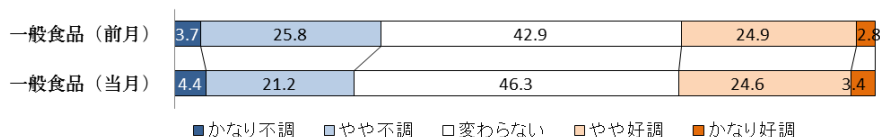
気温が高く、麺類などホットメニューは厳しかったものの、サラダ類や酒類のおつまみが好調となり、好天により外出の機会も多かったことから、全体ではやや好調となった。年末は、おせちのニーズは減少しているものの、クリスマスのチキンが好調だったというコメントが多く、洋風メニューの提案が好評だったとのコメントもみられた。

5. 日配 DI：-1.5（やや不調）



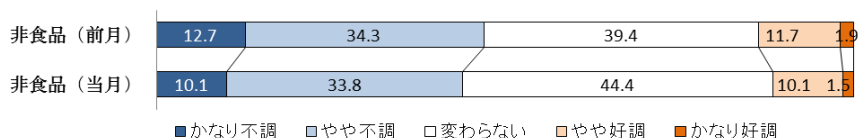
気温が高い影響で豆腐、こんにゃく、おでんなどの鍋用商材の動きが鈍かったが、一方で飲料や洋菓子、アイスクリーム（特にプレミアム系）が好調となった。クリスマスケーキの伸長、健康を意識したヨーグルト飲料をはじめとする乳製品が引き続き好調であるとのコメントが多い。

6. 一般食品：0.4（やや好調）



食品価格の上昇に加え、気温が高いことから飲料、酒類などが牽引し、やや好調となった。鏡餅など餅類は苦戦した。前年低調だったギフト需要が酒類を中心に回復したとのコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-10.2（不調）



気温が高く、冬物衣料、カイロなど防寒用品、マスクなどが伸び悩み不調となった。また 100 円ショップやドラッグストアとの競合の影響や、タバコの売上低下への指摘が多くあった。申年にちなみ赤色の肌着が売れたというコメントもみられた。

2016 年 1 月調査（12 月実績）キーワード TOP3

1. 気温上昇で冬物商材不調
2. 来客数改善
3. 年末売上好調

スーパーマーケット景気動向調査

- 12 月実績速報版集計 211 社
11 月実績確報版集計 226 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp